

福岡県北九州市

【活動概要・効果】

☆門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業

○歴史的建造物保存活用や変化に富んだウォーターフロント、美しい自然環境を生かした都市型観光拠点の形成を目指して策定した「門司港レトロめぐり海峡めぐり推進計画」が、旧自治省による「ふるさとづくり特別対策事業」の指定を受けたことを契機に、ハード・ソフト両面にわたる整備を官民一体となって進めている。

☆レトロプロムナード、門司港駅前のレトロ広場、門司港レトロ展望室、夜間景観創出のための「ナイトファンタジー」などハード面での景観整備は、民間投資の活性化、さらには、観光振興への住民参加の促進にも大きな効果を発揮している。平成6年に25万人だった観光客数は、グランドオープンした平成7年には107万人、平成18年には214万人と増加し、九州でも有数の観光地に成長した。

☆平成7年度に設立された官民一体まちづくり団体「門司港レトロ倶楽部」は観光素材の発掘・育成、情報発信など地域の観光振興に対し、大きな役割を果たしている。



レトロフェスタ

《人員確保での工夫・苦労》

平成7年に門司港レトロがグランドオープンしたことを契機に、門司港レトロ地区の観光振興と地域の活性化を目的とした「門司港レトロ倶楽部」が、地元まちづくり団体及び企業、行政の間で設立された。現在、レトロ地区のイベント年間総数250件のほとんどに「門司港レトロ倶楽部」が主催、あるいは支援等を行っている。門司港レトロ倶楽部は、「おもてなしの心があふれたより良質な観光地」を目指すうえで大きな役割を果たしていることから、市としては一層連携し、一体となった取り組みを積極的に行っていきたい。

《活動資金確保での工夫・苦労》

北九州市は、歴史的建造物の保存・活用と衰退の一途をたどっていた門司港の活性化を図るため、昭和62年に旧自治省が創設した「ふるさとづくり特別対策事業」に「門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業」としていち早く名乗りを上げ、昭和63年に事業採択された。財源対策上、タイミングよく発表された国の制度をうまく活用することができたことが大きく、その後も「中心市街地再活性化事業」や「地域活力創出事業」などの制度を引き続き活用できたことが、継続的な活動につながっている。

【現場の声】

門司港レトロ事業における第1期事業（昭和63年～平成6年）では、歴史的建造物の修復やレトロプロムナードの整備等の社会資本の整備を中心に行った。その結果、観光客の飛躍的増加や知名度の向上、観光マインドの芽生えなどの成果があったものの、滞在時間が短く通過型であることや飲食物販施設の不足、駐車場トイレの不足などの課題も明らかとなった。そこで、第2期事業（平成7年～）においては、第1期事業の成果と課題を踏まえ、滞在型観光拠点の整備を進めており、特に、民間活力の導入に力点を置いた事業展開を行っている。

今後は、門司港レトロ・関門海峡のブランド化の推進、民間活力の更なる導入、地域との連携によるまちづくりと観光マインドの育成などに取り組んでいく。

～北九州市門司港レトロ室
企画振興課企画係長 元村 和己さん



旧門司三井倶楽部